

$$r = \frac{\sum XY_i}{\sqrt{\sum X_i^2} \sqrt{\sum Y_i^2}}$$

$$\therefore r = \frac{X_1 Y_1 + X_2 Y_2 + \cdots + X_n Y_n}{\sqrt{(X_1^2 + X_2^2 + \cdots + X_n^2)(Y_1^2 + Y_2^2 + \cdots + Y_n^2)}}$$

これと③より,

$$-1 \leq r \leq 1$$

ここで, 等号は(2)が成立するとき, すなわち,

$$\frac{y_1 - \bar{y}}{x_1 - \bar{x}} = \frac{y_2 - \bar{y}}{x_2 - \bar{x}} = \cdots = \frac{y_n - \bar{y}}{x_n - \bar{x}} (= t \text{ とおく})$$

の成立するとき, ということになります。このとき,

$$y_1 - \bar{y} = t(x_1 - \bar{x}), \quad y_2 - \bar{y} = t(x_2 - \bar{x}), \quad \cdots, \quad y_n - \bar{y} = t(x_n - \bar{x})$$

より, 各点 $(x_1, y_1), (x_2, y_2), \cdots, (x_n, y_n)$ は点 (\bar{x}, \bar{y}) を通る直線 $y - \bar{y} = t(x - \bar{x})$ の上にあることがわかります。

($t > 0$ のときは, 右上りの直線, $t < 0$ のときは, 右下りの直線)

逆に, 各点が直線 $y - \bar{y} = t(x - \bar{x})$ 上にあれば,

$y_i - \bar{y} = t(x_i - \bar{x})$ を(4)式に代入することによって, $r = \pm 1$ が得られます。($t > 0$ のとき $r = 1$, $t < 0$ のとき $r = -1$)